

# 千葉県社保協通信

2022年度—No10 2023年 2月 11日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール [syaho2022@themis.ocn.ne.jp](mailto:syaho2022@themis.ocn.ne.jp)

## 県社保協&地域医療と公立病院を守る県民連絡会

### 県民のいのちまもれ！ 地域医療こそ充実を

県社保協は、1月27日(金)午前「地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会」と共に「新型コロナウイルス感染症・季節性インフルエンザから県民のいのちと健康を守り、地域医療の充実を求める」県要請を行いました。

昨年末に提出した要望書の項目を絞って行いました。参加者は、まず市議会で廃止が承認された松戸市立東松戸病院について「地域になくてはならない病院であり、県としての対応を」と求めました。

つづいて「災害拠点病院である国保匝瑳市民病院は老朽化や常勤医の減少が深刻」と訴え。また、「中核病院である東千葉メディカルセンターの運営に県として参画し、山武地域の救急・救命医療体制を充実こと」を求めました。つづいて「県循環器病センター(通称：鶴舞病院)の存続・充実、県立佐原病院の産婦人科の復活を」など次々に発言しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症対応の教訓を生かし、現状全国最下位水準の医師・看護師の確保、地域格差の解消、県内の自治体病院への支援をと訴えました。

そして、新型コロナウイルス感染症で入院を必要とするすべての患者が入院できる体制を構築し、やむを得ず自宅療養を行う場合には、そのための体制整備への支援策を拡充するよう求めました。



地域医療連絡会からは後藤英輝代表、長平弘事務局長ら5名、県社保協からは4名が出席。  
みわ由美県議が同席しました。

県健康福祉部の担当者らは、存続・充実を求める県内の自治体病院について、要請した統廃合計画撤回への言及を避け、「当該自治体とも協議していく」との回答にとどまりました。

参加者は「コロナ禍で公立病院が地域医療に果たしてきた役割は大きい」「医師・看護師の増員は喫緊の課題であり、病床削減はやめてほしい」と重ねて要望しました。

### 軍事費の拡大ではなく社会保障の拡充を求める 請願署名を推進します。

▲ 2023年2月～ 2025年6月末

(解散がなければ国政選挙は2025年夏)

▲ 目標 2年半で100万筆をめざします。

※3月半ばに裏面チラシ入り署名用紙を届けます。

-当面は添付の署名用紙を活用してください-

## 県社保協・消費税廃止県連絡会・憲法共同センター

### 大軍拡・大増税 NO !!

### いのち・くらしを守る社会保障の充実こそ

1月24日(火)12時～13時の定例宣伝では、「増税を議論もせずに決めるなど許されない」「戦争の危機感をあおり、軍事力強化ではなく、外交による平和的な解決の道に進むことが政治の役割」と「改憲NO」「消費税5%引き下げ」「介護保険改善」の3つの署名を訴えました。親が介護施設を利用しているという女性は、介護保険制度の先行きが不安と話し、「改憲」の動き、「消費税」の増税、「社会保障制度」の改悪、「この3つはつながっている」と署名に応じました。



土建・労連・自治労連・民医連・千商連・保険医協会・共産党・社保協の8団体14人が参加。